

令和6年度第1回 沼田市中小企業・小規模企業振興会議 会議概要

1 日 時 令和6年6月24日（月）午前10時30分～11時20分

2 場 所 テラス沼田5階 第2委員会室

3 出席者 須田恭弘委員、橋本浩二委員、中林寿緒委員、金井圭太委員、小菅伸一委員、藤井隆委員、石井壮太郎委員、相京貴志委員、高橋昌弘委員、山口正委員（事務局：産業振興課長、産業振興係長、商工振興係長、企業誘致推進室長）

4 内 容

【1 開会】

【2 あいさつ】 須田会長

本日は大変お忙しい中、暑い中ご参集いただき感謝申し上げます。

新聞に出ていたこれから消滅する市町村に沼田市、片品村、みなかみ町が入っていた。片品、みなかみについては改善傾向にあるということだったが、沼田市については悪化傾向になるということだった。この会議によって少しでも改善傾向になるように、皆さんに忌憚のない意見を頂戴しながら会議を進めていきたい。

（会長あいさつの後、委員の自己紹介）

【3 議事】

（1）沼田市中小企業・小規模企業振興施策について

- －【資料1】について事務局説明－
- －【資料2】について事務局説明－

（2）意見交換

- 外国の方も利根沼田管内でたくさん働いていて、非常に貴重な労働力であることは間違いない。
- 若年の求職者は少なめである。45歳より上の方たちがハローワークの中で50%くらいを占めている。
- ハローワークで把握している昨年の利根沼田の高校生の就職希望者は全員就職になっている。求人は利根沼田だけでも3倍を超えていた。求人は県外からも来るので10倍くらいかもしれない。人手不足だということになる。
- 社員が高齢で45歳以上の人たちが多くなっている。2人ほど外国人も雇っているが、就職してくれる人が少ないので外国人に頼っている。
- 子どもが減っている。来年4月には高校の統合もあるが、高校が維持できるかというのも死活問題である。今後数年はある程度入学が見込めるが、利根沼田の中学生も減っているの、管内の中学生がどのくらいなのかいつも気にしている。

- 市の課題という話になると、少子高齢化、人口減少に行き着く。子供が増えない、高齢者が多くなる、なお全体人口も減っている。中山間地、首都圏からある程度離れているところは、人口減少を止めようがないというのが現状である。
- 沼田は毎年約 700 人減っている。高校生までは地元にて、大学生も実家に住民票を置いている子が多いが、卒業して就職すると転出となる。大学を卒業して沼田に戻ってきて就職をするのはほんのわずかになってしまうので、そこも影響している。
- 人材確保のために移住で外から人を連れてきましょうということだが、7～8 年前から新幹線の通勤補助をしている。年に何名かはいるが、年 700 人減るところから見たら現実的な数字ではない。
- 高校生が少ないというところで、25 年前に比べてクラスが半分ぐらいになっている。出生率も過去最低というところで、何か対策をしていかななくてはいけないと思うが、何ができるかということを考えて自分は動いている。
- 子育てのしやすい地域なので、子育て世代になるとまた戻ってくることもあったりもする。都会で暮らす便利さもあるが、田舎での子育てのしやすさをもっと売りにして、高速の通勤手当を現実的にやったら、沼田から通勤してくれるということにつながると思う。
- 雇用の話がでていますが、会議所の会員も減少が進んでいる。働く人の高齢化で廃業となり会員を辞める方もいる。高齢者の働き方を確保しながら、高齢者が長く働けるような体制を作るというのも必要だと感じている。
- 企業誘致が進んでいるが、裾野が広がる企業が来るのが一番大事なことだと思う。企業が来ることによって、下請的な裾野が広がれば波及効果があるのではないかと感じている。
- 地域経済循環のところでインバウンド対策ということもあったが、商工会でも沼田市と県の商工会連合会と一緒に海外販路の開拓に取り組んでいる。去年は台湾での相談会にも参加させていただいたが、円安が進む中でインバウンド事業は今後の拡大が期待できる。
- 外国人旅行者の誘致に向けた商談も行ってきた。取り組みの成果としては、商談会に参加いただいた事業者さんのところに、台湾を中心とした外国人旅行者のツアーが継続して催行されているという話を伺っている。国内市場が縮小傾向にあるので、インバウンドでも地域消費の拡大という部分については企業や事業者にとっては期待される部分かと感じている。
- お迎えした外国人旅行者の方がスムーズに楽しんでもらえるように他言語化対応とか wi-fi 環境の整備のようなきめ細やかな対策を行って、インバウンドによる地域経済の振興を図っていくことが必要なのではないかと感じている。
- 企業誘致をしている中で法人経営をされているオーナーさんに何うと、やはり人材不足だということをよく耳にする。今でこそ足りないのに、新たな企業を連れてきてもそこで働く人の確保をどうするのだという話を当然される。若者が地元に戻ってきて就職をしたいけど、自分の思い描くような職場が見当たらない、いろいろな事情で戻ってこられない人もいる。単に企業を連れてくれば働き口が増

え、若者が帰ってくるというような短絡的な考え方でやらない方がいいのだろうというところで準備を進めている。

- 創業の促進を図るということで、県内で起業する方に補助する事業を令和元年度からスタートしていて、元年度から5年度までは毎年30名募集していたが、今年は10名の募集になってしまった。国からの予算が減ってしまったので、諸般の事情もあると思うが、市町村の補助の増額とか対応をしていただければありがたい。
- 高校生の定員割れが続いている。地域の状況を考えると、多くの学校で定員割れが起こっている。本校はおよそ半数が就職をするが、地元就職したい子がほとんどである。管内だけでも3倍ぐらいの求人があったが、多くは先輩が行って働いているところとか知っている企業に就職するので、新しい企業になかなか行かない状況である。
- 企業が来ると就職する方としてはありがたい話だが、地域全体で見たときには、働き手はどうするのだということになる。企業が来るときに働く人も一緒に来てもらえればいいのだが、相当の魅力がなければわざわざ引っ越しては来ない。そうなるに出ていく人を減らすということしかない。
- 大学生はなかなか戻ってこない、大企業とか公務員を目指せば帰ってくるが、出た先でそのまま就職する人が多いのが現状である。地元に残すための作戦としては、小中学生のときまでにいかに地元愛を育むかがすごく大事かと思う。
- 隣の高山村も子どもが少なくなっている。この先どうなるのか、消滅の可能性が高いのではと思っている。消滅可能性都市からは外れたが、外れて何が良かったか分からない。20年くらい前は、住宅用に宅地を分譲するとあっという間に売れたが今は全く売れなくなっている。村営住宅も空き待ちで人気がすごかったが今はずっと空いている。良かった頃は周囲に比べて全然人口も減らなかったが、今は周囲と同じように減る一方である。地元の子をいかに残していくかということが何よりも大事だと思っている。
- 事業主の方の相談や悩み事を聞いていると、人材不足、人件費を上げたくても上げられないというお客様がいる。光熱費が上がって物価高、それが経費を切迫している、それに加えて金融機関の貸付の金利も上昇していきだろうと言われていた状況である。市でも小口資金の保証料補助等を行っているが、設備資金とかにも金利の補助を行う等があればよいのではないかな。
- 住宅ローンの金利も今後上がってくるだろうと予想される中で、市としても金利の補助等があればよいかなと思う。人を増やすためには家を建てて定住してもらうのが近道だと思う。住宅ローンの利子補給等をしている自治体もある。
- 奥利根観光連携協議会の総会に出席したが、会員の一人から沼田城の建設はどうかという話がでた。みなかみ町や川場村には集客があるようだが、沼田は素通りしているようなイメージである。何か目玉の施設を作って、沼田に泊まってもらうということも大事なのかなと思うので、そういったところも検討いただければと思う。
- 人材不足、少子高齢化、これはもう避けて通れない。土建業、建設業で技術者も

高齢化になっているが、若い人にはない経験が高齢者にはある。若い人を一緒につけて勉強させながら仕事をする。優秀な人を会社に残すためには魅力ある会社にしていかなくてはならない、なおかつ給料も上げなくてはならない。大手にはまねのできないような会社の魅力を考えているが、最終的には賃金が高い企業に行ってしまう。年配の人は生活があるから辞めないが、若い人を辞めさせないために給料を上げている。そんな状況が今の会社経営である。

○奨学金を受けると地元で10年いないといけないとか5年勤めないといけないとかいうのがあるが、奨学金を受けた人は地元で就職するなんていうのがあるといいのではないか。

○都会の企業に就職する人も多い。その方々を訪ねて、実家から通勤されたらどうかと言うのもある。環境のいいところで子育てをしたらどうかという話をする。またその優秀な会社を逆に沼田に連れてくる。10人に声をかけて1人あたればインパクトはあると思う。

○魅力ある街というのは、綺麗な環境のいいお店がたくさんある。沼田にもある程度まだあると思う。そういうことも充実しているということをアピールしながら、観光の核を作って観光客を呼び込むという、夢のあるような施策を作る。

(3) その他

—事務局からの事務連絡—

※次回開催は、10月の予定

【4 閉会】